

# はジャンボうさぎで れタマグラ

#### 私事で恐縮ですが

は鎌などの刃物と柄の間をつなぎ止め とは確かです。ちなみに、 る金属の部分のことです。 い意味の表現で使われる言葉でないこ っ込む人を「腐れタマグラ」と言いま 私の住む地域では、 語源は定かではありませんが、 何にでも首を突 タマグラと 良

み込まれたような抱き合わせの腐れ縁 の干支でもあることから、 タマグラ人生」だったと思っています。 とになる私は、公私ともにその「腐れ 二九年間の役所勤務に終止符を打つこ その中でも特にうさぎとの縁は、 さて、来年 (二〇一一年) 三月末で DNA に組 私

> がら、筆を進めたいと思います。 述べる機会をいただいた縁に感謝しな て「ジャンボうさぎ」に対する思いを という気がしています。 この度こうし

関わり続けています。 仙町と記させていただきます)の職員 後は実行委員あるいはスタッフとして ら第七回 仙地域になっていますが、ここでは中 月に中仙町(現在は合併して大仙市中 ぎフェスティバル」には、 で二三回目となる「全国ジャンボうさ 五年三月までの二三年間担当し、今年 来、畜産が主担当の農政事務を一九九 に採用されたときからでした。 役所勤務の始まりは、一九七二年四 .目までを担当者として、 その 立ち上げか それ以

ていました。

イナーな存在なのか、

常々疑問に思

長澤 孝秋 大仙市中仙総合支所市民課課長

【ながさわ たかあき】1951年、秋田県中仙町(現大仙市)に農家の長男として生まれる。秋田県立大曲農業高等学校を卒業後、秋田県立農業大学園(2年 制) 畜産科へ進み畜産を学ぶ。1972年、中仙町役場に入庁。主に農政事務を担当し、家畜人工授精師、 農業改良普及員の資格を持つ。プライベートでは、 長男、長女が独立した現在、妻と二人暮らし。趣味

は農業、野球の審判で、秋田県野球協会公認-

審判員でもある。

#### 「うさぎはなぜだめなのか?」 常々思っていた疑問

田県には、昔から「秋田犬」

此

田白うさぎ」だけが話題にならないマ れる三大動物が存在するのに、なぜ「秋 内鶏」「秋田白うさぎ」と全国的に誇

㎏程度になり、その姿も優雅に大きな 秋田県で飼われている白うさぎは成熟 くなってもせいぜい四~五㎏程度です。 白色種という日本古来の品種で、 ょん跳ねるイメージのうさぎは、 (生後七~九ヶ月) したもので六~七 『因幡の白兎』 に出てくるぴょんぴ 日本

が特徴で、これが「秋田改良種」と言 われるのど元の皮膚にたるみのあるの 耳を真っ直ぐ立て、「べろかけ」と言 われるうさぎです。

性のある畜産という視点で普及できな はいるのですが、そうした資料も紐解 ても残念だと思っていましたし、収益 ん。一部の関係者の間で語り継がれて に、一般的にはあまり知られていませ った長い改良の歴史が綴られているの の多くの先人たちの夢がいっぱい詰ま いだろうかという思いもずっと持ち続 かれないまま埋もれさせていくことはと 実はこの「秋田改良種」には、

るこの大きな白うさぎに、やっとスポ ットライトが当たることが起きたので そんなある日、 陽の目を見ないでい



秋田改良種の雄姿

す。それが「中仙ジャンボうさぎ」の

誕生でした。

#### ジャンボうさぎ誕生ー

がとても印象的でした。 てやったり!」という得意満面の笑顔 四㎏でした。このときの佐藤さんの「し 計りに載せて指針の揺れが収まるのを 名づけられた生後一七ヶ月の雌で、台 いました。そのうさぎは、「館桜号」と 佐藤喜志治さん(当時七五歳)宅へ伺 始まりでした。さっそく、私は同僚と ということが地元で話題になったのが 待って確認した重さが、なんと一○ 二人で台計りを抱えて、飼育者である た。「喜志治のうさぎ一○㎏超えたど! それは一九八四年五月の中頃でし

のが「中仙ジャンボうさぎ」というネ 般の方に理解してもらうのは難しいか れるか、考えあぐねた末に思いついた スコミに取り上げてもらうために、ど しは理解いただけるかなと思います。 かどうかの体重ぐらい」と言えば、少 い子供が満一歳にしてやっと到達する もしれませんが、人間なら「発育の良 う表 現したらよりインパクトを与えら この一〇・四㎏のうさぎの話題をマ 一〇・四㎏がどれだけすごいのか

> のです の話題は県内外に広く知れ渡っていく こととなり、ここに晴れて名実ともに とができました。「中仙ジャンボうさぎ」 「中仙ジャンボうさぎ」の誕生となった

きく広がることにもなったのです。 白うさぎを愛する仲間の輪がさらに大 その遺志を引き継ぐことになり、大型 仲間が佐藤さんの実績を讃え、惜しみ、 となってしまいました。多くのうさぎ 燃え尽きるように同年九月、帰らぬ人 人はその後体調を崩され、情熱の炎が しかし、育ての親である佐藤さん本

## ジャンボうさぎの町はドンパンの町

が、今では地域のイベントとして定着 私も実行委員として関わってきました には、町おこし企画として第一回目の ンパン」のテンポよい唄で知られる「ド 中仙町は「ドンドンパンパン、ドンパ パンまつり」と言われるほどになりま し、八月一六日と言えばすぐに「ドン 「ドンパンまつり」 が開催されました。 ンパン節」発祥の地です。一九八五年 皆さんご存知ないかもしれませんが、

員会のメンバーの中で話題に上ったの が「四季のイベント開催」という構想 年経過した頃、ドンパンまつり実行委 このドンパンまつり開催から一~二

多くのマスコミで取り上げていただくこ

ーミングでした。これがみごとに当たり



でした。

夏はドンパンまつりで盛り上がり、秋 が、冬だけが何もない。この冬のイベ を覆う八乙女公園で観桜会が催され 春には二〇〇〇本のソメイヨシノが山 には産業文化祭が開かれていたのです ーの一致した思いでした。 ントをどうかしたいというのが、 メンバ 当時、中仙町のイベントとしては、

> 思いや企画が好き勝手に語られるよう 以上に話題になったのが、秋に開催し ました!」という展開に発展したので た。「ジャンボうさぎ」を活用したイベ ている産業文化祭のあり方を見直して になるという、私にとっては「待って ントについて、 メンバーからさまざまな 「ジャンボうさぎ」 をアピールしたイベ ントを開催できないかということでし

する運びとなりました。 ジャンボうさぎフェスティバル」を開催 一九八八年一○月、第一回目の「全国 こうした熱い仲間の存在があって、

## フェスティバル開催の背景

ティバルを開催するに至っては、いく ボうさぎ」が誕生し、さらにそれを継 つかの背景がありました。 まず、一○㎏を超える「中仙ジャン 中仙町で全国ジャンボうさぎフェス

ことが挙げられます。また、中仙町には、

「じゃ、雪まつりをやろう!」という

もありました。 の毛皮を集荷しその皮をなめして出荷 という「うさぎの生き字引き」の存在 することを業としてきた渡辺浅吉さん しながら、秋田県内でただ一人うさぎ と呼ばれ、戦前からうさぎの肉を販売 通称「八幡のうさぎ」 「うさぎじっちゃ\_

になりました。 積極的に動いてくれたことも大きな力 商工会青年部など畑違いの熱い仲間が それから、地元農家の和牛青年部、

の馬産家だった佐々木房之助氏である 改良のさきがけとなったのが、中仙町 に大型うさぎを導入し(明治三二年頃) ありません。 歴史的背景としては、秋田県で最初

## フェスティバル実現に向けて

優れたうさぎを多く集めないと看板倒 いうことです。 の参画をどのような形で呼び込むかと なったのが、他市町村のうさぎ飼育者 れになってしまいます。そこで課題と はうさぎの品評会であり、どうしても このフェスティバルのメインとなるの

のことが大きな壁として立ちはだかり 協力を得るのは難しい状況でした。こ 連携が固いのです。他の地域の町おこ する思い入れが激しく、しかも仲間の 系統を守り続けてきたうさぎ飼育に対 しに協力なんかできないという態度で、 他市町村の飼育者は、それぞれの

間」の存在があったことは言うまでも 承しようとするたくさんの「うさぎ仲

私たちは他市町村の飼育者への説得を フェスティバルを成功させるべく、 ことが即決定となったのですが、それ

デカラビ(キャラクター)と子供たちのもちつき

いです。 そしてこ そしてこ とした構成

できたこと、その事実を後世に伝え、できたこと、その事実を後世に伝え、できたこと、その事実を後世に伝え、これから先も地域を越えて一緒になって改良に取り組んでいくために、このフェスティバルを開催することなどを強く訴えて、理解してもらうよう努めまく訴えて、理解してもらうよう努めます。しかし、そう簡単には話に乗ってもらうことができず、見切り発車のです。

とした構成で観客参加型のものにするげたのは、イベント内容は子供を対象めに、実行委員会の方針としてまず掲めに、実行委員会の方針としてまず掲

麺早食い大会」等のイベントです。 レース」や「うさぎ体重あて」「杜仲レース」や「うさぎ体重あて」「杜仲ということです。具体的には「うさぎ

の年のうさぎの大きさ (体重、体長)

ー部門を多くするよう工夫したり、そ

一方で、主催する側には実行委員の他に、生産者にもスタッフとして参加してもらいました。生産者が青空青果市や試食販売所を開設し、地元特産物のPRと販売促進を行うように企画することで、地域協賛型となるようにしたのです。特に昔からの食文化である「うさぎ鍋」を「日の丸鍋」としてる「うさぎ鍋」を「日の丸鍋」としてるが長年温めていたものでした)消費私が長年温めていたものでした)消費私が長年温めていたものでした)消費私が長年温めていたものでした)消費

また、うさぎの品評会ではエントリ

することを申し合わせました。

をジャンボ級部門として最重点部門にだけを競う部門を目玉とし、八㎏以上

### フェスティバルの波及効果

効果をもたらしました。この成功が、町にさまざまな波及を重ねるごとに盛り上がっていきました。この成功が、町にさまざまな波及

まず、全国からうさぎの注文が殺到しました。これにより、うさぎの飼育者が増え、県内外からのフェスティバルへの参加者が増えていきました。それに伴い、うさぎの改良がますます進みました。特にジャンボを競う大きさみました。特にジャンボを競う大きさみました。第三回大会において一・一塚のうさぎが出現しています。 さらに、大型うさぎが全国に知れ渡さらに、大型うさぎが全国に知れ渡ったことで、実験動物用としての需要 さらに、大型うさぎ飼育が収入の伴

脅かすほどになっています。
て「ジャンボうさぎ」の本家の立場を授業に本格的にうさぎ飼育を取り入れ授業に本格的にうさぎ飼育を取り入れ

う立派な産業として成り立つほどにな



子うさぎとふれあう 子供たち

#### フェスティバルの裏話

ソードもありました。 試食用の「日の丸鍋」は、うさぎ肉 イベント成功の裏では、 数々のエピ

のですが、口の中は の担当で、一鍋でき 備します。毎年私 物の味がわからなく て一週間ぐらい食べ やけどの後遺症とし るごとに味見をする なります。 ○食~八○○食準

匹プレゼントしてい 毎年子うさぎを五〇 ってしばらくしたら ますが、もらって帰 また、子供たちへ 寄せられたことです。このような予想 ような内容のメールが二○○件以上も かないから、即中止しろ!」といった ただ、予期しない出来事もありまし 例えば「動物虐待を許すわけにい 愛されてしまったのでしょうね。 子を産んだというハプニングもありまし 入れているうちに、マセていたうさぎに た。プレゼント用として一緒にかごに

### 腐れタマグラの付け足し

外の反応からイベントの内容を見直し

お客様が訪れる、

秋の名物イベントに

月の第三日曜日には県内外から多くの たこともありましたが、現在では一〇

頭に「腐れタマグラ」について触れま の審判があります。 っ込んできた私の生き様の一つに野球 したように、さまざまなことに首を突 に絞って筆を走らせてきましたが、 「ジャンボうさぎ」に関わることのみ 冒

年で丁度四〇年になります。 私は、野球の審判活動をし続けて今

ジすることは、私にとっては最高のス すということを長年繰り返してきまし でない限り休みの日はどこかの野球場 トレス解消にもなっています。 た。審判をしながら大きな声でジャッ は時間を忘れてジャッジの議論を交わ と試合を振り返り反省をする、あるい きました。そして、試合終了後に仲間 かグラウンドにいるという生活を続けて 毎年四月から雪降る間際まで、大雨

カバーリングが要求されます。が、若 されませんから、常にお互いの信頼と を運営し、ジャッジします。ミスは許 は三人や二人)は同じ認識の下で試合 のことですが、四人のメンバー(時に 試合に立つ審判員であれば至極当然

> 当していた際、立ったまま眠ってしま の存在がありました。 ります。ここにも同じ思いの熱い仲間 いジャッジできなかった苦い思い出もあ いときの失敗談として、二塁審判を扣

ちです。 続けて三五年になります。この同級生 日として集まり、毎年一回の旅行会を 級生一三名とは今でも毎月一日を例会 たちも忘れてはいけない大事な仲間た 仲間と言えば、小学校時代からの同

てきたという大反省も残っています。 す。ただ、家族には本当に迷惑をかけ さを今しみじみ感じさせてもらっていま を最近になって気付き、そのありがた してこの仲間に私は活かされていること ように多くの熱い仲間がいること、そ 私の「腐れタマグラ人生」にはこの

て何も得ず」なのかな?…なんてふっ に言い聞かせているこの頃です。 と思ってしまいます。でも、これから は一兎をも得ず」いや、「十兎を追っ が第二章の始まりなんだと、強く自分 家族の目から見れば「二兎を追う者

まわせることは言うまでもありません。 さぎのアパート小屋に再びうさぎを住 留守になっている我が家の歴史あるう そして、二年前に父が亡くなって以来 ある自然相手の農業をすることです。 それは、今度は趣味ではなく家業で